

2023（令和5）年度事業報告書

（2023（令和5）年4月1日～2024（令和6）年3月31日）

特定非営利活動法人越谷らるご

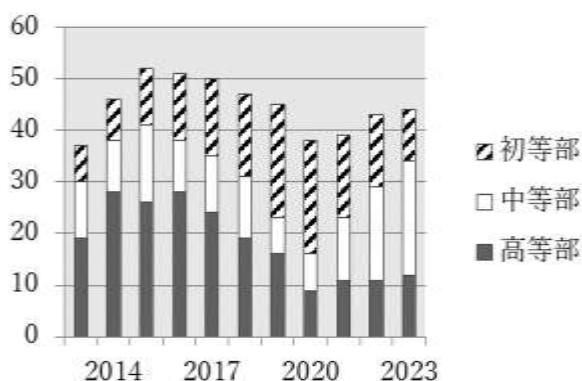
はじめに

定款に記載された目的および事業の内容を達成するため、事業計画に沿って下記の事業を通常通り実施した。

1 事業の成果

1) フリースクール事業

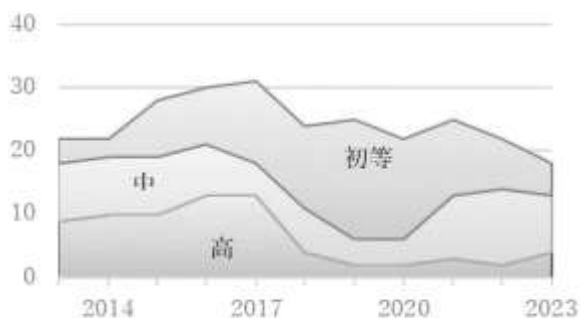
(ウ) 年度末の在籍者



2023年度は、年間を通して40名程度で活動し、この3年で微増している。

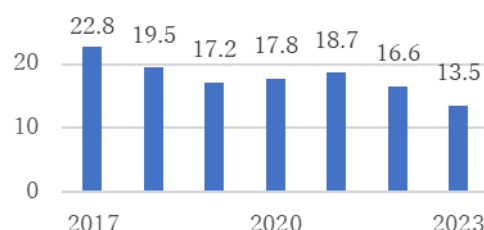
在籍の内訳は上のグラフのとおりで、一番多いのは中等部となっている。今年度で中等部の半数が高等部に移行するので、2024年度は高等部の人数が一気に増えることが見込まれる。

(ウ) 「いつでもコース」の人数



一方「いつでもコース」の人数は18名で在籍者の半数以下に減少している。右上グラフの通り、日々の平均来所数は過去3年間減少傾向にある。

(ア) 1日当たりの来所状況



フリースクールの活動は、今年度はコロナウィルスの影響をほぼ受けることなく、例年通り特別活動、ひるめし食堂、お誕生日会などを実施することができた。その他には、9月から月に1～2回、おやつ作りの日を設けた。また夏休みには音楽活動をするメンバーを中心に、外部の劇場を借りてバンド発表会を実施することができた。また夏には海に、冬はスキーに2泊3日で行き、充実した旅行になった。お泊り会も3回実施した。

講座・学習

通信制高校のレポート作成等の学習支援、進学に関する情報提供や相談等を個別に実施した。また、通信制高校の説明会に、スタッフが同行することもあった。

ここ数年で通信制高校の人气が高まったことで、希望通りの高校に受からないメンバーもいた。今後もりんごの木メンバーの進路の選択に影響が出ることが予想される。

保護者との関わり

保護者会は1回、保護者面談については夏休み、春休みを中心にオンラインでの面談を含め、実施した。また保護者有志によるお茶会の開催も4回実施した。イベント案内やお知らせ等はりんごの木公式LINEにて、随時連絡をした。

実習生等の受け入れ

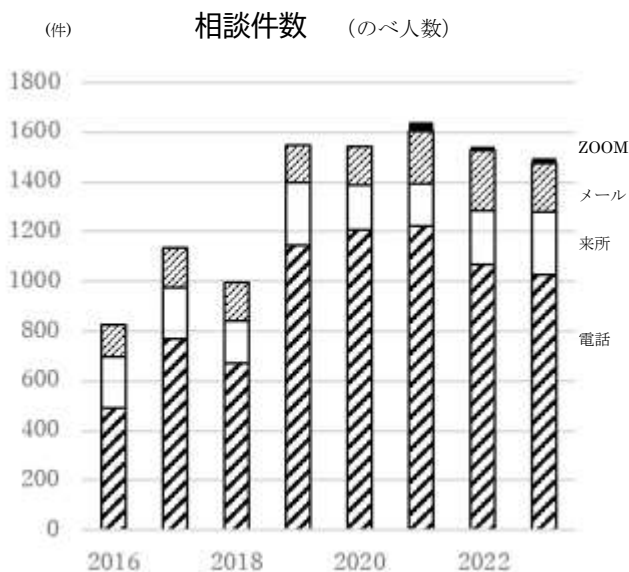
- ・文教大学学生心理実習として1名受け入れた。
- ・同大学授業でゲストスピーカーとして協力した。
- ・埼玉大学教育学部学生のインタビューを受けた。

2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の

相談に応じ、互助活動を支援する事業

「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」

相談活動として、埼玉県の委託事業「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」でひきこもりに関わる相談を週5日、年間を通して受けた。相談件数は下記のとおりであった。



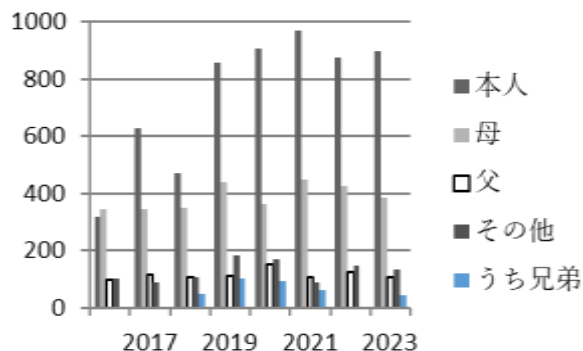
※オンライン相談は2021年度から。

相談の傾向は大きく変わらないが、来所相談が2019年度と同数くらいまで増えているが、全体としては2021年度をピークに微減している。新規相談(239件)も下記のように新規相談が減っていることが総数の減少の理由と考えられる。

件数が増えていない理由は不明だが、ひきこもり支援が県全体で広がっていることで分散しているのかもしれない。



(人) 相談された方 (のべ人数)



相談された方は2019年以降、ご本人が圧倒的に多く、そして母親、父親と続いている。相談において、引きこもっているご本人の気持ちを否定的にとらえず、継続しての関わりを大切にしている結果だと考えられる。

相談の目的の多くは、ただ話を聞いてほしい、不安を聞いてほしいというものだった。何か具体的なアドバイスを求める、情報を求めるというのではなく、受けとめてほしい、分かってほしいというものだった。この傾向はこれまでとずっと変わらず、その思いをしっかり受けとめていくことが大切である。

ただ丁寧に話を聞き、受けとめていくということは、決して簡単なことではなく、スタッフへの負担も少なくない。2023年度のスタッフ体制は、結果的に十分とは言えなかったため、スタッフへの負担も大きかった。次年度はスタッフがゆとりをもって、安定して関わられるような体制を築いていくことが課題である。

親の会

計画したすべての会が開催できたが、参加者が少ない回があったことやスタッフ体制等を鑑み、今後のあり方への課題が残った。

コル〜発達障害とともに生きる会

発達障害周辺の方（家族やご本人）を対象に、交流や情報交換の場として、年4回を計画どおり実施できた。

ほっとりんご（20歳以上の人の居場所）

食べ物企画を頻繁に実施したこともあるのか参加者の数も多く、充実した活動ができた。

また女性が安心して参加できるための「女子会」を年3回実施した。ご本人向けの居場所検索サイト「ひきプラ」からも引き続き利用もあった。

3) 生涯学習にかかわる事業

「わくわく体験プロジェクト」

地域や NPO、越谷市が協働して、保護者向けに不登校体験談を聞く会等を3回実施した。

4) 人権擁護の推進と福祉の増進に

かかわる事業(自立援助ホーム)

2023年度は日常的に宿直できるスタッフが2名で厳しいスタッフ体制がスタートしたが、11月には1名のスタッフが常勤として入職し、スタッフの夜勤体制が少し落ち着いた。

前半は長く入居している子どもたちが安定していたため大事なく運営することができた。後半は彼らが退所の年齢を迎えたことに加え、新規入居者が増え、年度末には定員一杯になるなど、雰囲気ガラッと変わった。また高校生等の入居も増えていることも新たなゆらいの空気を作っている。

研修や会議については可能な限り参加できた。特に2023年度は研修で出会った大学教員にスーパービジョンについての内部研修会の講師を依頼し、今後に向けてつながりもつくることできた。

運営委員会は計画通り、年4回、開催したが、委員の解任の事案があったことやスーパーバイザーが不在になったこと等、次年度への課題も残った。

退居者については、電話やメール、来訪や訪問などを通して、年間304件の支援を実施した。今年度の退去者については伴走支援を実施する等、個々に応じてきめ細かく実施するように努めた。

全国自立援助ホーム協議会から開設10周年の表彰を受けた。

5) 活動のなかで得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業(広報事業)

「越谷らるご通信」は、月1回紙ベースとPDFで発行し、活動の案内や報告等を行った。

また活動報告や告知はホームページでも実施した。

外部委員・会議等の参加（オンライン含む）

- ・埼玉県不登校児童生徒支援のための官民連携会議
- ・吉川市若者支援の在り方検討会議
- ・越谷市保健所ひきこもり連絡会
- ・越谷市自殺対策協議会
- ・東京都学校・フリースクール等協議会
- ・越谷市・フリースクール・教育委員会連絡会
- ・さいたま市教育委員会学校FS等連絡協議会
- ・ごちゃまぜの会
- ・越谷市青少年問題協議会

講師活動

- ・吉川市若者支援を考えるシンポジウム
- ・埼玉県立大学・大学院（授業）
- ・熊谷市こども課
- ・日本学校教育相談学会研修会
- ・越谷市保健支援センターひきこもり市民教室
- ・春日部市精神保健福祉連絡会
- ・ひきこもり VOICE STATION
- ・越谷女性経営者商工会議所
- ・埼玉県不登校セミナー

2 事業の実施にかかわる事項

特定非営利活動にかかわる事業

事業名	事業内容	実施場所	支出額
1) フリースクール事業	月～金曜日 10:00～17:00 (木曜日は 12:00～17:00) に子どもの居場所、育ちの場を開き、活動の支援や相談、見学・体験入会などを行った。 2023年度は 45 名でスタートし、6 名が新入会し、11 名が年度中に退会した。 (2024 年 3 月末の在籍：45 名。)	本法人の事業所他	12,293 (千円) 以下同様
2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業	親の会 年 11 回予定通り実施した (のべ参加者数：135 名)。	本法人の事業所	12,837
	埼玉県ひきこもり相談サポートセンター (埼玉県委託事業) 月・水～土曜日 10:00～18:00 にひきこもり等に関する相談を電話・来所・メール、オンラインにて受けた(のべ相談者数：1499 名)。	本法人の事業所	
	20歳以上の居場所 ほっとりんご(同上委託事業) 20 歳以上の人の居場所として、女子会 3 回を含む 23 回を予定通り開催した。 (のべ参加者数：132 名)	本法人の事業所	
	コル～発達障害とともに生きる会 年 4 回、互助的な会を開催した(のべ参加者数：22 名)。	本法人の事業所	
3) 生涯学習にかかわる事業	行政 (越谷市) と地域との協働事業「わくわく体験プロジェクト」 不登校の体験談を聞く会など、保護者向けの会を 3 回実施し、年度末に報告書を作成した(のべ参加者数：70 名 ※2022…58 名、2021…36 名、2020…42 名)	中央市民会館	4
4) 人権擁護の推進と福祉の増進に関わる事業	自立援助ホームの活動 家庭での生活に困難を抱える若者の自立支援を行った。新たに 5 名の一時保護を含めた入居があり、2 名の退居があった。退居者支援として、退居者の来訪、相談、訪問など(304 件)を行った。	本法人の事業所	28,128
5) 活動の中で得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業	『越谷らるご通信』の発行 毎月、会員及び関心をもつ方を対象に、11 回メールによる発信を含め、計 3,000 部ほどを発行し、活動で得られた知見を社会に発信した。	本法人の事業所	172
	インターネットによる発信 不特定多数の方を対象に、ホームページ、フェイスブックによる発信・更新を行った。	本法人の事業所	
	その他 ・行政等が主催する 9 つの会議に委員として参加した (書面開催含む)。 ・保健所等が主催する 9 カ所で学習会・講演会などの講師活動を行った。	本法人の事業所の他依頼先	
管理部門	法人事務、運営管理等	本法人事業所	1,631

3 運営管理に関する事項

- ・2024 年 3 月末現在、正会員 55 名(60 名)、賛助会員 47 名(43 名)であった。(括弧内は 2023 年 3 月)
- ・情報管理が徹底されるよう、毎月事務局会議で個人情報の管理状況を確認した。
- ・広く支援を受けるための取り組みとして、「フリースクールりんごの木子どもサポート基金 (以下、サポート基金)」「若者自立支援基金」、「一般寄付」の 3 種の寄付メニューを継続した。
サポート基金については、オンライン寄付サイト Give One を活用し、「高山弘子基金」も含め様々な方から継続して支援をいただき、助成金として受け取ることができた。
- ・10 年前に作成したミッションを見直し、有志のメンバーで 2023 年度版を策定した。
- ・活動に際して関わる人へのスタッフボランティアの心構えや指針をミッションに則って作成した。
- ・埼玉しあわせ未来基金助成金でノートパソコンを 2 台購入した。
- ・性暴力被害が起きた際の危機管理マニュアルを改訂した。また研修も含め、必要に応じて性暴力危機管理委員会の開催と必要事項の報告等を実施した。
- ・当該年度の譲渡資産、資産の貸付、役務の提供に関しては該当なし。
- ・給与を得た職員の総数 16 名。左記職員に対する給与総額 36,624,359 円